

A, Bグループ論点集約表

資料3-1

NO.	回	頁	グループ	項目	小項目	該当箇所	意見	考え方	取扱い
1	2	P1	A	1 計画策定の趣旨	(1)これまでのまちづくりの歩み	全体	自然災害が少ないことをアピールしていくなら、なるべく最初の方に記載した方が良いのではないかな。	災害の少なさは、人口減少対策の面でも重要であるが、大規模自然災害の発生が少ないという地域特性に安心せず、市民や行政などが一体となり、万が一の災害発生に向けた対策を図り、災害対応能力を強化した上、地域資源として生かすことが必要と考える。 地域特性については、まちづくりの展望(3)で示しているほか、基本政策6で「本市の持つ強みを生かし」と表現していることから、原案どおりとする。	原案どおり
2	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)1行目 「31万2千人と」	「31万2千人」という表現が気になる。	本市の直近の人口動態を反映した人口推計値として示していることから、原案どおりとする。	原案どおり
3	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)4行目 「少子高齢・人口減少社会を迎えます。」	人口減少社会を迎えることを断定するような表現をしないほうが良い。	人口減少は全国的な課題であり、本市においても第8次総合計画の策定に当たり行った人口推計では、人口減少は避けられないと考えている。 人口減少は計画の前提条件として捉える必要があることから、原案どおりとする。	原案どおり
4	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生き育てられる環境」	少子化の原因は、現役世代は子どもの養育費・教育費にお金がかかることが大きいのではないかな。学歴社会なので大学まで進学させなければならぬ。金銭的に余裕がない人は、子どもを生き育てることができない環境である。子どもを増やすのであれば、公的な支援が必要であり、こうした考え方を構想に盛り込むべき。	まちづくりの展望の(1)では、「安心して子どもを生き育てられる環境を整えるなど」と表現しているほか、基本政策1においても「社会全体で子どもの成長を支え」と表現しており、子育て支援に取り組むことを基本構想に盛り込んでいる。経済的支援など、具体的な施策については、基本計画において盛り込む考えである。	基本計画
5	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生き育てられる環境」	経済的な理由もあり、二世帯で住む家を作る人が多い中、二世帯で住む人を増やしていくことは難しい。二世帯は、保育所や留守家庭児童会がなくても子育てがしやすい。公的な支援と合わせて考えていく必要がある。	意見4に同じ	基本計画
6	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生き育てられる環境」	結婚してこそ子どもが生まれるので、結婚に関する表現も必要ではないかな。	意見14に同じ	要検討 意見14と併せて
7	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生き育てられる環境」	進学先がなく、道外に行ってしまう子どもが多い。私立より公立の方が金銭的な負担が軽いことから公立の進学を選択肢が多い方が良い。	参考意見とする。	参考意見
8	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「子どもを生き育てられる環境」	「子どもを生き育てられる環境」だけではなく、「移住」に関することも記載すべきではないかな。	意見9に同じ	基本計画
9	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)8行目 「誰もが住み慣れた地域で生きがいを手にとって」	「移住してきた人も住みやすい」という表現を含めた方が良い。	新たな人の流れを作り出す必要性については、展望(4)で示すと共に、基本政策7で「魅力を広く発信し、新たな人の流れを作り出し、まちが人を呼ぶ温かな賑わいづくりを進めます。」と、移住、定住者に対する取組を進める考えを示している。 基本計画で検討する。	基本計画
10	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	全体	より具体的な目標を立てた方が、達成できたかどうかを把握しやすい。例えば、人口減少を解消するために何をしていたかということも具体的に記載した方が良い。	基本計画で検討する。	基本計画
11	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	全体	他の自治体の人口減少対策(モデルケースなど)を記載してはどうか。	人口減少は、全国共通の課題であり、現在、国を挙げてその対策に取り組んでいるところである。本市における具体的な人口減少対策は、国で示す全国的な情報等をもとに、旭川市総合戦略で示す予定であることから、原案どおりとする。	原案どおり
12	2	P4	A	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	全体	東神楽や東川など周辺町は、子どもへの医療費助成が充実している。	参考意見とする。	参考意見
13	2	P4	B	3 まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)7行目 「次代を担う人材の確保などの中長期的な対応」	若者や高齢者などの移住定住の視点を加えてはどうか。	意見9に同じ	基本計画

14	2	P4	B	3	まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「安心して子どもを産み育てられる環境を整える」	女性の社会進出とは別に子育ての環境が整っていない。 企業誘致や地元企業の育成も重要であるが、結婚、出産などに対する直接的な少子化対策が先決ではないか。	基本政策1で「誰もが希望を持ち、安心して妊娠、出産、育児ができるよう、子育てと仕事の両立をはじめ」と少子化対策の考えを示し、基本政策6で「人材の育成、確保に取り組む」と人材育成、雇用の確保について示している。 結婚の表現について要検討。	要検討
15	2	P4	B	3	まちづくりの展望	(1)本格的な少子高齢・人口減少社会への対応	P4 (1)6行目 「市民が生き生きと学び、働くことができる環境づくりや安心して子どもを産み育てられる環境を整えるなど、まちの活力の創出と次代を担う人材の確保など中長期的な対応」 P7 (4)6行目 「若い世代はもとより、女性やシニア世代が活躍しやすい環境づくりを進める」	旭川市は離婚率が高い傾向にあると聞いているが、経済基盤が弱い ため、安心して、結婚、出産できない現状もある。 6次産業など、地場産業の育成により、雇用促進し、経済基盤の安定化が必要。コールセンターなどのように契約社員ではなく、正社員として働ける環境の整備が重要である。	意見14に同じ	要検討 意見14と併せて
16	2	P5	A	3	まちづくりの展望	(2)地域コミュニティの創生	P5 (2)7行目「取組を進めていくことが重要です。」	すでに市民主体の取組が行われていることから、「こうした取組を取り込んだまちづくりが必要」という表現の方が良い。	ここでは、課題認識を示していることから、こうした表現としている。 内容としては、意見と同様な考えであることから、原案どおりとする。	原案どおり
17	2	P5	A	3	まちづくりの展望	(3)地域コミュニティの創生	全体	町内会に加入する一番のメリットは、町内会が葬式を行ってくれることであった。今は業者をお願いしている。このことが地域のつながりを希薄化させた要因の一つである。	参考意見とする。	参考意見
18	2	P5	A	3	まちづくりの展望	(3)地域コミュニティの創生	全体	地域コミュニティの現状や課題とその対策を記載すべきではないか。	基本計画で検討する。	基本計画
19	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P7 (4)2行目 「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」	地震が少ないという旭川の地域特性を企業誘致など本市の成長に活用する旨のニュアンスを散りばめてはどうか。 また、本市の基幹産業である農業を核と捉え、地球規模で温暖化が進む中、今後、果樹などを地域資源として活用する視点を加えてはどうかと思うが、文章中の「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」の部分で表現されているとも思う。	意見と同様な考えであるため、原案どおりとする。	原案どおり
20	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P6 (3)9行目 「二酸化炭素などの排出削減や資源の循環利用を促進し」 P7 (4)2行目 「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」	市内の自然エネルギー利用について、域内のキャッシュフローの促進の観点を検討してはどうか。 木質バイオマスの活用による地域特性を生かしたエネルギーの利用など、圏域内での資金循環を促進するという可能性もある。	まちづくりの展望の(3)の「二酸化炭素などの排出削減や資源の循環利用を促進し」を受け、基本政策9の「地域特性を生かしたエネルギーの有効利用の促進など、環境負荷の低減を図り」で木質バイオマス、太陽光など地域特性を生かしたエネルギーの域内循環利用を示しており、基本政策6の地場産業と連携して資金の域内循環にもつなげていきたい考えは意見と同じである。 基本計画で検討する。	基本計画
21	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	全体	旭川において水力発電(揚水発電)やその他、未利用エネルギーの活用可能性はあるか。 一近隣にダムを保有しているが、火力や原子力などベースロード電源と離れている立地状況において、ピークカットの役割が大きい大規模水力発電を設置するメリットは小さいのではないか。	参考意見とする。	参考意見
22	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P4 (1)7行目 「次代を担う人材の確保などの中長期的な対応」 P7 (4)2行目 「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」	災害が少ないという地域特性を生かして、企業誘致などを積極的に進め、雇用の拡大する観点が必要ではないか。 (3)や(4)などに示されている地域特性や取組などを生かすことが、(1)の人口減少の対策となるものと考ええる。	まちづくりの展望を受け、基本政策6で「企業誘致を推進、～人材の育成、確保に取り組む」と表現している。しかしながら、基本政策10及び都市構造の方向性で示すように、大規模自然災害の発生が少ないという地域特性に安心せず、市民や行政などが一体となり、万が一の災害発生に向けた対策を図り、災害対応能力を強化した上、地域資源として生かすことが必要。 企業誘致等に関しては、こうしたことを地域特性として既にアピール材料として使用している。 意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
23	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P7 (4)2行目 「地域に根ざした各種の産業の充実を図り、さらには海外市場も視野に入れた地場産品の創出や販路拡大の取組の必要性が高まっています。」	豊田市のような大企業の立地による経済基盤の確保も視野としては必要。関連産業など地元産業の育成にもつながる。	基本政策6で「企業誘致を推進～地域産業の基盤強化」と示している。 意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり

24	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P4 (1)7行目 「次代を担う人材の確保などの中長期的な対応」 P7 (4)2行目 「地域特性や資源を生かし、地域に根ざした各種の産業の充実を図り」 P7 (4)11行目 「観光振興や圏域全体の資源を生かした地場産品の販路拡大などを図るため」	活力をどう呼び込むかが重要である。 少子化は本市だけではなく全国共通の問題となっている中、病院など都市機能が充実している本市の地域特性を生かし、産業振興を図り、若者の雇用を確保し、人をどう呼び込むかという視点が必要。 一過性のイベントなどによる交流人口の増加を図るのではなく、まちの資源を若者の呼び込む魅力に変えることが重要。	基本政策6で「本市の持つ強みを生かし、地域産業の活性化を図り」、また「人材の育成、確保に取り組む」と、産業振興や雇用拡大に係る考えを示している。 また、基本政策7で「中心市街地や各地域の個性を生かし、人が集い、感動につながる取組を進めるとともに、～まち全体の魅力を高め」、「新たな人の流れを作り出し、まちが人を呼ぶ温かな賑わいづくりを進め」、「広域連携による観光振興などに取り組み、多様な交流を世界に広げ」など、交流人口の増加に加え、定住人口の増加に向けた考えを示している。 意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
25	2	P7	B	3	まちづくりの展望	(4)地域経済の基盤強化とグローバル化の対応	P6 (3)5行目 「建築物や橋梁の耐震化の促進や地域防災力の向上を図るなど、市民の暮らしへのリスクを最小限にとどめるための危機管理体制を強化し、安心につながる安全なまちづくりを進めていくことが重要です。」	地震が少ないという本市の地域特性を積極的にアピールし、企業誘致や若者の呼び込みなどを進めることも必要ではあるが、災害とは地震だけでなく水害や火災など人災もあり、また、地震についても大規模地震の発生する確率がこれまで低かったというものであることから、手放しでそれを宣伝材料にすることは危険である。構想の中に表現されている市民や行政などが一体となり、万が一の災害発生に向けた対策強化が必要であるという考えは重要である。	意見22に同じ	原案どおり
26	2	P9	B	4	まちづくりの基本的な考え方	—	全体	第7次総合計画において達成できなかった指標や浮かび上がってきた課題を第8次総合計画の策定に当たっても検討していく必要がある。 また、市民検討会議で出された意見などを検討に加えていきたい。	参考意見とする。	参考意見
27	2	P9	B	4	まちづくりの基本的な考え方	—	P9 4 1行目 「急速に進む少子高齢化・人口減少、地域経済の低迷、厳しい財政状況など、本市を取り巻く状況に対応していくために、これからのまちづくりを展望しつつ、」	記載されている5つのまちづくりの展望に重要な要素が全て含まれているか。また、まちづくりの基本的な考え方とは、各まちづくりの展望を踏まえたものなのか。 →(事務局)市民意見をもとに庁内議論を踏まえ作成している。現在、審議いただいている基本構想は、大きな方向性を示し、今後、基本計画において具体的な政策、施策を示す。	参考意見とする。	参考意見
28	3	P9	A	4	まちづくりの基本的な考え方	—	1行目～2行目	「急速に進む少子高齢化・人口減少、地域経済の低迷、厳しい財政状況など、本市を取り巻く状況に対応していくために」とあるが、こういった課題は本市のみならず、他の都市も同様の課題を抱えており、こういった状況に対応するよりは改善していかないといいけないのではないのかと思う。	参考意見とする。	参考意見
29	3	P9	A	4	まちづくりの基本的な考え方	—	8行目及び10行目	8行目:「生き生きとした市民や地域の力を原動力として、より豊かで質の高い暮らしが実現することで、このまちに暮らすことの喜びが大きくなっていきます。」の「喜びが大きくなっていきます。」といった表現をもう少し意気込みが感じられる表現にしてはどうか。 10行目:「地域資源が磨かれ」という表現より「地域資源が活用され」ではどうか。 意識的に旭川の良いものを見出ししていくといった意味ではむしろ「活用」よりも「磨かれ」といった表現の方がいいのではないのかと思う。	意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
30	3	P9	A	4	まちづくりの基本的な考え方	—	全体	市民意識調査の結果から、市民が医療・救急体制の充実を求めていることが分かったが、そういった市民ニーズが基本構想に書かれていない。 また、全体的に平板に書かれているが、旭川の良いところがどこで、どこを伸ばしていくべきか、その辺のポイントがあまりこの基本構想(案)に反映されていないのではないか。 市民検討会議の提言書の中で、「旭川市は医療機関数が人口10万対11.7と全道や全国より多く」という記述があるが、これは病院の数であって、医療機関の数ではない。(医療機関というのは、病院と診療所の数である。) さらに、「就労している医療従事者数は全道、全国より多い状況にある。」という一文についても、医療機関数について、旭川は全道とほぼ同じであり、はたして全道より多いと言えるだろうか。	参考意見とする。	参考意見
31	3	P9	A	4	まちづくりの基本的な考え方	—	全体	ここに表記されている文言は、①問題の把握・課題の把握、②対応策、③実行、④評価のこの4つの段階のステップをしっかりと踏んでいるのか。	参考意見とする。 ※平成25年度「市民意識調査」、平成26年度の第7次総合計画の点検報告において、現状把握、課題認識をし、市民検討会議、次世代ワーキンググループなどで、対応策等、様々な意見集約をした上、骨子としてまとめている。	参考意見
32	3	P9	A	4	まちづくりの基本的な考え方	—	全体	第7次総合計画における課題は何であったを明確にして欲しい。そういった課題の中に、シャッター街の問題であるとか、ドーナツ化現象の問題は入っているのか。	中心市街地の居住や商業機能などの低下は大きな課題であると認識した上、基本政策7において「中心市街地や各地域の個性を生かし、～まち全体の魅力を高めます。」と中心市街地の活性化について示していることから、原案どおりとする。	原案どおり

33	3	P9	A	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「第7次点検報告書(概要版)」を見ると、町内会加入率の課題がある。私たちが日頃から、町内会への加入を勧めているが、若い人、特にアパートに入居している人たちに勧めるが入ってもらえず、加入率は50%を切っているように思う。 市で何か抜本的な対策に着手しないとダメだと思う。	参考意見とする。	参考意見
34	3	P9	A	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	委員各自が思っていることや考えていることが、基本構想のどこかに大まかに表現されていれば良いのではないかと。 詳しい施策や課題については、次の基本計画の中で個別具体的に検討されるべきものであり、そこで打ち出されてくるのであると思う。 要は、言いたいことが基本構想の中で大まかに表現され、そこから各自の思いや考え方を読み取ることができるのであれば良いと思う。	意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
35	3	P9	A	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的考え方」だけ読むとよく分からないと言った感じである。 「5 目指す都市像」と「6 都市像の実現のために」と「4 まちづくりの基本的な考え方」との関係が分かりにくい。 さらに、骨子の「3 まちづくりの展望」の「現状と課題」には、明るい話題も書いてあるが、基本構想にそれらが載せられないということであれば、工夫が必要だと思う。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
36	3	P9	A	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	全体の表現として、課題など本市が抱える問題点から出発しているので、楽しいものになっていない。マイナスの課題は書いてあるけれど、本市の良いところがあまり打ち出されていないのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
37	3	P9	A	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	(1)これまでのまちづくりの歩みは不要なのではないか。 今までのことを振り返るより、前を見て話をすると明るいものになるのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
38	3	P9	B	4 まちづくりの基本的考え方	—	全体	「まちづくりの基本的な考え方」は、基本条例の前文を踏まえた表現としてもよいのではないかと。 ここでは、現状と課題がイントロダクションとなっているが、それらを脱却するために必要な手段(これからどうすべきか)をポジティブに表現した方がよいのではないかと。 この文章は12年後も生きることになることを意識することも必要。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
39	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	この章は、「これからのまちづくりとはこういうもの」という定義、方向性を示したものであり、内容的には違和感を感じないが、タイトルが内容にマッチしていないのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
40	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的な考え方」から、各基本目標につながっていくことから、ポイントを絞り、わかりやすい表現としてはどうか。 「3 まちづくりの展望」→「4 まちづくりの基本的な考え方」→「5 目指す都市像」へと、スムーズにつながるよう、市民にとってわかりやすく、表現の重複を抑えた構成にするなどの工夫が必要ではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
41	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	ここでは課題設定に対しての12年間の目標や手段などを掲げている部分であるが、「3 まちづくりの展望」をもっと踏まえた書きぶりにしても良いのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
42	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	もっと、簡潔で良いのでは。 全体のコンセプトとなるようなワードを用い、端的に表現してはどうか。 本市の魅力については、9ページの3,4行目「本市の地域資源である豊かな自然や都市機能が調和した旭川らしい暮らしの充実」という表現に集約されているのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
43	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	「3 まちづくりの展望」を踏まえた上での今後のまちづくりの考え方がこの部分の位置付けとなっており、原案とおりで問題ないのではないかと。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
44	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	「3 まちづくりの展望」では、全国的に共通する課題、本市が抱える課題の両方が記載されており、「4 まちづくりの基本的な考え方」では、その両方に対しての本市の基本的な考え方が表現されていることは良いかと思う。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて
45	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	「4 まちづくりの基本的な考え方」は、「3 まちづくりの展望」(1)～(5)を受けた形で表現されていることからこのままで良いかと思う。	意見46に同じ	要検討 意見46と併せて

46	3	P9	B	4 まちづくりの基本的な考え方	—	全体	これらに表現されている内容は、もっともなことであり、否定するものではないが、読み手側からするとわかりにくさを感じる。 「4 まちづくりの基本的な考え方」の前段4行は、「3 まちづくりの展望」のそれぞれの課題認識や方向性をまとめたものであり、表現が重複しているような印象を受け、考えを強く押し出したい思いとは逆にぼやけてしまっている。 また、「3 まちづくりの展望」(1)～(5)を踏まえた上、「4 まちづくりの基本的な考え方」の5行目以降の「考え方」につながっていく方が自然な流れであり、読み手側からしても分かりやすいのではないかと。 →(各委員)意見に賛同	意見35から47②を踏まえ、「3 まちづくりの展望」、「4 まちづくりの基本的な考え方」、「5 目指す都市像(説明)」の構成、表現等について要検討。	要検討
47	3	P10	A	5 目指す都市像	—	全体	①「目指す都市像」は「目指すまち」の意味であるのなら、旭川が目指す都市像に違和感がある。世界にきらめかなくていい。「世界にきらめく」とは一体どこからきているのか。 ②基本的な考え方の内容と、都市像の内容がかけ離れている。4と5の順番が逆か、内容の問題なのか、順番の問題なのか、分らない。4と5であるが、この都市像を実現するための考え方が先に示されるべきではないか。	①都市像に関しては、意見51に同じ。 ②構成に関しては、意見46と併せて要検討。	要検討 意見46と併せて
48	3	P10	B	5 目指す都市像	—	全体	「拠点」とあるが、中核ではないか。拠点では都市規模が小さいイメージがある。	意見51に同じ	原案どおり
49	3	P10	B	5 目指す都市像	—	全体	「世界にきらめく」に違和感を感じる。 世界にきらめくためには、アジアだけでなく世界全体をターゲットにして、経済が成長し、観光など交流人口が増えることが必要。 この都市像を掲げるためには、今後審議を予定している基本計画などにおいて、対応する施策が盛り込まれていることが必要。	意見51に同じ	原案どおり
50	3	P10	B	5 目指す都市像	—	全体	基本的には、そのまことに「住みたい」、「行ってみたい」と思わせるようなまちであるべきだと考えるが、そういった部分がこの都市像から感じ取れるか。	意見51に同じ	原案どおり
51	3	P10	B	5 目指す都市像	—	全体	例えば、旭川の大きな資源である旭山動物園は、既に「世界にきらめく」状態となっていると思う、その他にも様々な地域資源があり、それらを磨き上げるにより、12年後、「世界にきらめく」状態となっていることを目標とし、都市像にすることは良いと思う。 ただし、そこに向かうために必要な施策が伴うことが条件である。 →(各委員)意見に賛同	意見と同様な考え方のため、原案どおりとする。	原案どおり
52	4	P11	A	6 都市像の実現のために	全体	全体	全ての議論の前に、基本目標等についてどこが主体となるのかについて検討すべき。実際に誰がやるのかを理解していないと、ただ言葉を修正しても仕方がない。修正したのはいいが、結局誰も動かないのでは意味がないので、きちんとイメージして議論すべき。	参考意見とする。	参考意見
53	3	P11 ～ P12	B	6 都市像の実現のために	全体	全体	「3 まちづくりの展望」(2)でふれている「地域コミュニティ」は、子育て、福祉など様々なまちづくりに係る取組において、今後、ますます重要な要素となることから、基本目標として表現しないのか。 ただ、地域コミュニティは、全ての基本目標の下支え、ベースとなるものであることから、全体の共通要素となっているという考えもあるかと思う。	意見と同様な考え方のため、原案どおりとする。	原案どおり
54	3	P11 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	全体	全体	「3 まちづくりの展望」(1)～(5)に掲げられている表現が基本目標につながってくるような構成となっているか、再度、確認が必要ではないか。	まちづくりの展望を踏まえた基本目標の設定としていることから、原案どおりとする。	原案どおり
55	3	P11 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	全体	全体	基本目標1、2においては、子育てや福祉・医療などについて述べていることを端的に分かりやすく表現することが望ましく、なるべく修飾するような表現は削ぎ落とした方がよいのではないかと。	基本政策の名称は、これまで市民検討会議など様々な市民意見をもととしながら、各基本政策で示す内容の趣旨が感じ取れるよう表現に配慮するとともに、各基本政策の統一感を図ってきたことから、原案どおりとする。	原案どおり
56	3	P11 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	全体	全体	基本政策1は子育て、基本政策2は保健・医療、基本政策3は福祉、基本政策4は学校教育、基本政策5は生涯教育についての項目となっているが、各基本政策や基本目標もその中に書かれている内容が端的に分かるようなタイトルとしてはどうか。	意見55に同じ	原案どおり
57	3	P11	A	6 都市像の実現のために	基本目標1	基本政策1	「子ども一人一人が家庭の中で愛情を受けながら」ということは基本であるが、家庭の中で愛情を受けられない子どももいることから、そういった場合には社会で支えていくことが必要である。	基本政策1で「子ども一人一人が家庭の中で愛情を受けながら健やかに育つことはもとより、社会全体で子供の成長を支え」と示しており、意見と同様な考え方のため、原案どおりとする。	原案どおり

58	3	P12	A	6 都市像の実現のために	基本目標1	基本政策2	「質の高い医療や救急医療の確保に取り組みます。」ではなく、質が落ちないようにどうするか、維持できるかということが重要である。	意見を踏まえ、要検討	要検討
59	3	P11	A	6 都市像の実現のために	基本目標1	基本政策3	高齢者や障害者などへの福祉サービスの提供とあるが、これからの時代においては、高齢者や障害者はサービスを受けるだけということではなく、旭川のまちづくりをどうしていくかを一緒に考えていくことが必要である。	参考意見とする。	参考意見
60	4	P12	A	6 都市像の実現のために	基本目標1	基本政策3	地域包括支援センターについて、高齢者を支援するために情報を集めたいが、個人情報や壁となってやりにくい。町内会でも情報を把握していないことがあり、何か起きた時の連絡先が分からないことがある。消防や医師会などでも「個人情報」が壁となることがあるので、自分の情報を出して良いという高齢者については、地域包括支援センターなどに伝えることや個人情報の開示を緩くしてもらうなど、市などの関係者が連携して取り組むべき。	参考意見とする。	参考意見
61	3	P12 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	基本目標2	基本政策5	基本目標2及び基本政策5に生涯学習の視点をもっと強く入れる必要はないか。 基本政策5のタイトル「スポーツや文化に親しみ、学びを深める環境づくり」の後段の「学びを深める」が生涯学習の意味を持ち、主となる部分であれば、本文の構成等と整合していないのではないか。	スポーツも生涯学習に含むため、まずは概念的に大きい「生涯学習」について示し、その後、スポーツ分野について示す構成としており、「学びを深める環境づくり」は、全体にかかると考えていることから、原案どおりとする。	原案どおり
62	3	P12 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	基本目標2	基本政策4, 5	基本目標2及び基本政策4.5では、知育、体育の部分が中心として表現されているが、食育や情報リテラシーなどの部分も重要であるとする。また、子供から高齢者まで各世代をサポートし続ける教育を目指すような表現となっているかが読み取りにくい。	基本計画で検討する。	基本計画
63	3	P12 ～ P13	B	6 都市像の実現のために	基本目標2	基本政策5	世代間交流など、生涯学習が未来の担い手である子どもの教育にもつなげていく視点が若干足りないのでは。	意見を踏まえ、要検討	要検討
64	4	P13	A	6 都市像の実現のために	基本目標2	基本政策5	東京オリンピックの新しい種目に、スケートボードとかサーフィン等が候補となっていたが、スポーツ人口の裾野を広げるといのであれば、12年後を見据えて、新たなスポーツや世界を目指すことなどについてもう少し強調してはどうか。	参考意見とする。	参考意見
65	4	P13	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	今こそ、パラダイムシフトが必要。10年前のモデルはもう通用しないので、過去からの後ろ向きの発想ではなく、新しいものを取り入れていきたい。新しい技術やモデルを取り入れて「旭川風」の姿勢を文言として盛り込んでいくべき。いつの時代もバイオニアや試行錯誤する者は強いと思う。	参考意見とする。	参考意見
66	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	北海道や旭川の農産物については、作って外へ出すだけでなく、加工をするなどもっと付加価値を付け、販売することを推奨していくと、農業だけではなく商工業にも波及し、経済基盤が上がっていくと思う。	基本計画で検討する。	基本計画
67	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	「旭川には大企業がないから良い。そこが倒産すると全てがダメになる」とある方が言っていたが、眼鏡で有名な福井県の鯖江市も同じで、大きなものではなく、小さくてもユニークなものを立ち上げる、拾い上げるという発想で考えるべき。	参考意見とする。	参考意見
68	4	P13	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6, 7	地域の魅力の発信ということについては、地域の資源を生かすということに加え、「環境の変化に注視しながら」という視点も必要ではないか。	基本計画の基本政策6の現状と課題で、「地域内や国内における需要への対応のほか、国外の需要を視野に入れた対応が必要となる」と表現されており、意見と同様な認識には立っている。 意見72に同じ	要検討 意見72と併せて
69	4	P13	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6, 7	都市像にある「世界にきらめく」ということについては、産業・交流の分野でしか表現できないと思うので、ここで強く主張した方が良い。	意見72に同じ	要検討 意見72と併せて
70	4	P14	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	産業については、市民の所得にかかわるものであり、また、税金などの面で市の収入の根幹となる部分であることから、力を入れるべき分野である。	意見72に同じ	要検討 意見72と併せて

71	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	基本政策の文言については、旭川市でなくても通じる文言である。もう少し旭川の特徴が見えてくる文言になればと思う。基本政策なので余り具体的に書けないと思うが、例えば地場産品をどこに売りたいといったように、特に力を入れたいというものについて具体的に表記されていれば良い。	意見72に同じ	要検討 意見72と併せて
72	4	P14	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策6	基本政策6については、2つに分けても良い。例えば、農業等の既存産業の維持、発展と、今後の12年を見据えた新たな本市の産業のあるべき姿とは、政策を分けて考えることが必要ではないか。本市の産業の維持、発展させていくことについて、今後の12年についてはこれまでの10年とは明確に違うということや、本市の産業をどのようなかたちで発展させていこうとしているのか、積極的に表現することはできないか。もう少し具体的に、明るい兆しを明確に打ち出した方が良い。	意見を踏まえ、要検討	要検討
73	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	まちの賑わいについて、食べマルシェは3日間であるが、札幌では1週間に上開催している。マルシェが終わると、その後は何もなくなってしまうので、もう少し取組を広げ、地域に根ざしたものにすれば、賑わいが出てきて、「温かなまち」になっていくと思う。	意見74に同じ	原案どおり
74	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	買物公園では、気がつく店舗がイオンに入っており、空洞化が気になる。4条以北は際立ったものがないので、8条辺りまで人を呼べたら良い。これは市だけではなく、商店街にも関わることであり、市民がなるべくそこを使うよう協力することや工夫が大切だと思うので、そうした文言が入れば良い。	基本政策7で「中心市街地や各地域の個性を生かし、人が集い、感動につながる取組を進めるとともに、魅力を広く発信し、新たな人の流れを作り出し、まちが人を呼ぶ温かな賑わいづくりを進めます。」と、意見と同様に、地域の個性を生かした取組の推進の考えを示している。中心市街地のほか、地域コミュニティの拠点となる地域商店街の活性化を図ることは重要と考えており、考えとしては意見と同様のため、原案どおりとする。	原案どおり
75	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	イオンに人が流れているという状態が多い。空き店舗が目立っており、3条以北は寂しい状況である。7条緑道を活かして活用できないか。	意見74に同じ	原案どおり
76	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	イオン西店は、家族全体が買い物をして楽しいお店である。細長い店内を歩いていくと、ちょうどいい所にトイレがある。買物公園も同じ発想で公衆トイレやトイレを無償提供する店をつくると、駅前から7条まで楽しく歩いていけるのではないか。	意見74に同じ	原案どおり
77	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	買物公園の5条から7条周辺に気軽に車を止められる駐車場が欲しい。行政が支援して地域で土地を買い取って駐車場にすれば良い。まちなかマネジメント協議会などが実施するイベントに対する警察の規制が厳しいと聞いているので、もう少し規制を緩められないか？さらに、7条の市場と8条辺りを核として、日常生活の物品が揃うようにすれば、活性化すると思う。また、バス路線の一部を緑橋通から昭和通に移すことで、賑わいも戻ってくるのではないのか。	意見74に同じ	原案どおり
78	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	市役所の庁舎建替えについて、大胆に市の中心街に移転すれば、人が集まり発展するのではないかと思う。この機会に庁舎をどこにするのかを検討し、活性化のチャンスとすべき。	意見74に同じ	原案どおり
79	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	市役所の庁舎建替えについて、今の近くに建て替えた方がいいと思う。高齢者は段々車の運転が出来なくなってしまうので、中心部に高齢者用のマンションを建てて、歩いて行ける場所に食事や買物等ができるシステムがあれば良い。	意見74に同じ	原案どおり
80	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	市役所の庁舎建替えについて、緑橋通は、夜は暗くなってしまう。日中だけではなく、夜も人が集まるようなことも考えて場所を選定すべき。	意見74に同じ	原案どおり
81	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	旭川に来る観光客は旭川空港経由ではなく、新千歳空港から日帰り旭山動物園へ行き、新千歳空港経由で帰ってしまう。旭川空港の就航率は90%以上と新千歳空港より高いので、もっとアピールすべき。また、連結バスやノンステップバスを走らせるなど利便性を高めたら良い。道外の観光客が旭川空港を利用して、旭川駅前まで泊まり、旭川空港で帰るといった流れをうまく作ったら良い。	参考意見とする。	参考意見
82	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	東京のように深夜のバスがないが、むしろ旭川こそ必要で、夜に若い人が集まるような仕掛けが必要である。	参考意見とする。	参考意見
83	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	公共交通について、富山市では例えば高齢者がマチなかまで乗るとバス代が100円で、途中で降りると料金が高くなるシステムとなっているため、高齢者がマチなかまで行って、ついでにお酒を飲んで帰ってくるなどの効果があると聞く。	参考意見とする。	参考意見

84	4	P14	A	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	旭川空港へは、人数にもよるがバスよりもタクシーで行った方が安いことがある。空港からの利便性向上についても検討すべきである。	基本計画で検討する。	基本計画
85	4	P14	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	観光について、「第8次旭川市総合計画の要素」によると、「通年滞在型観光への取組が重要」が触れられているが、重要なのは、滞在してもらうための要素がどれだけあるのかということである。本市に滞在してもらうために、「文化・産業資源型観光」など、本市ならではの特長を盛り込んでいく必要がある。	基本計画で検討する。	基本計画
86	4	P14	B	6 都市像の実現のために	基本目標3	基本政策7	交通機能の充実に係る内容については、基本政策8の都市基盤の内容に盛り込んで良いものではないか。	交通政策は、基本政策8の都市基盤整備や快適な住環境の創出、または、基本政策9の環境負荷低減にも大きく関係するものであることから、施策横断的に進めていくべきものであると認識している。既存の交通網を生かして、快適性向上のほか、まちの賑わい創出や魅力向上につながる政策と密接に連携しながら、誰もが使いやすい交通ネットワーク構築に向けた取組を進めることが重要であるとの認識から、基本政策7としており、原案どおりとする。	原案どおり
87	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策8	「四季を通じて暮らしやすい都市の構築」とあるが、最近目に付く空き家の対策はどうなっているか。	参考意見とする。	参考意見
88	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策8	西神楽では、グラウンドワーク西神楽を中心に空き家対策に取り組んでおり、アンケートを行うなど、域内での移住や空き家の有効活用について検討している。将来的には空港が近いことを生かし移住者を呼び込むことを考えており、参考事例となると思う。	参考意見とする。	参考意見
89	4	P15	B	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策9	リデュース、リユース、リサイクルの「3R」について、これにリフューズ、リペアを加えた「5R」ということもいわれている。あえて「3R」とした理由はあるか。	リフューズ(不要なものは買わない)、リペア(修理して長く使い続ける)の要素は、リデュース(ゴミを減らす)、リユース(再利用する)に包含されるものと認識しており、これまでも3Rを使用している。意見と同様な考えであることから、原案どおりとする。	原案どおり
90	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	自主防災組織については、作って終わりではない。今の時代、防災を通じた絆づくりが、唯一地域の絆を取り戻す方策となりうる。	参考意見とする。	参考意見
91	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	以前、本州に住んでいた時には、毎年9月1日の防災の日に子どもと親と一緒に防災訓練を行っていた。旭川へ移り住んで、台風の時の学校の対応など、市民の防災意識が不足していると感じることが多い。今後は、防災意識を高めていく必要があるのではないのか。	基本計画で検討する。	基本計画
92	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	以前、地震が少ないことは担保にはならないという話があったが、地震が少ないことを強調することは危険ではないか。 また、ホットラインについて、腕時計型の発信器は腕が麻痺している人は使えないので、単にモノを導入するのではなく、それを有効に使うために必要な人を送り込むことが重要であり、旭川としてもこれからそういう意識でやっていかなくてはならない。	基本政策10及び都市構造の方向性で示すように、大規模自然災害の発生が少ないという地域特性に安心せず、市民や行政などが一体となり、万が一の災害発生に向けた対策を図り、災害対応能力を強化した上、地域資源として生かすことが必要との考えは、意見と同様なため、原案どおりとする。	原案どおり
93	4	P15	A	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	防災意識を培っていくためには、まず、その土地に起きた災害などの歴史を学ぶことが重要である。	参考意見とする。	参考意見
94	4	P15	B	6 都市像の実現のために	基本目標4	基本政策10	「総合的な防災力の強化を図る」とされているが、大雪や地震等に対してどのように対応していくか、具体的に盛り込んでいくことが必要ではないか。	雪対策については、四季を通じた快適な住環境の創出の観点から基本政策8に含まれており、大雪時の災害等の対策については、基本政策8と基本政策10との施策横断的な取組となることから、原案どおりとする。	原案どおり
95	4	P16	A	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策11	町内会加入率については、良いところで6割でアパートなどは5割を切る。若い人が町内会に入らないから、毎年、会員数が減り、増えることはない。共同募金などもなかなか集まらないのが現状である。少しでも若い人の加入率が高くなれば良い。	参考意見とする。	参考意見
96	4	P16	B	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策11	市民と行政が「協力」してまちづくりを進める旨の記載があるが、この部分を「協働」という用語にしてはどうか。	協働の定義は、「それぞれの果たすべき責任及び役割を自覚し、相互に補完し、協力し合うこと」であり、ここで示す表現は、全体で「協働」の考え方を示していることから、原案どおりとする。	原案どおり
97	4	P16	B	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策11	町内会、市民委員会等の住民自治組織について、あまり触れられていない。住民自治組織の基盤を強化していくという考えは、重要である。	基本計画で検討する。	基本計画

98	4	P16	B	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策11	この部分は、まさに「まちづくり」に関する部分であり、旭川市まちづくり基本条例について触れた方が良いのではないかと。	まちづくり基本条例は、市域におけるまちづくりのほか、広域など幅広くまちづくりに関して盛り込まれている。条例の趣旨については、基本政策11だけでなく、総合計画全体に及んでいるものであり、構想冒頭の「1 計画策定の趣旨」にその旨、表現していることから、原案どおりとする。	原案どおり
99	4	P17	A	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策12	南さつ平市や北名古屋市と防災協定を結んでいるが、大規模災害が起きた時に、災害の起きていない地域に救われる可能性が高いので、他都市との防災協定をもっと進めても良いと思う。他の都市が災害にあった時に、旭川が被災者を積極的に受け入れる姿勢を日本中に示すことが重要である。	参考意見とする。	参考意見
100	4	P17	B	6 都市像の実現のために	基本目標5	基本政策13	組織の「簡素化」という表現があるが、「効率化」の方が適切ではないか。 市民ニーズの多様化、人口減少が進む中、組織のコンパクト化が必要との考えは重要であると考えますが、単に削減するのではなく、場合によっては機能の充実も必要である。	意見を踏まえ、要検討	要検討
101	4	P18	A	7 都市構造の方向性	全体	全体	「都市構造の方向性」については、具体的に旭川市のイメージができ、非常に良い。	意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
102	4	P18	A	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	コンパクト化の方向性ということだが、これまで郊外に宅地造成をしており、高齢者などのことを考えると不自由となることも予想されるので、ただ単にコンパクト化するのはどうかと思う。	「コンパクトで効率的な都市構造の構築に向けた取組を進める」と示していることに加え、快適な住環境や賑わいの創出、産業基盤、拠点機能の強化、環境保全、防災力の強化と都市構造に必要な役割を述べており、これらが創出されるようにコンパクト化、効率化を図る必要があるという考えは、意見と同様であるため、原案どおりとする。	原案どおり
103	4	P18	B	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	重要な内容であり、この章が設けられたことに意義があると思う。全体的に盛り込まれているところであるが、まちを住みやすく、コンパクトに適正化していくことが必要である。	意見と同様な考えのため、原案どおりとする。	原案どおり
104	4	P18	B	7 都市構造の方向性	[方向性]	全体	集約型都市構造を目指すということをまず明確にし、その上で土地利用などの施策を整理するという構造とした方がよいのではないかと。集約型都市構造を目指すということをタイトルにしてはどうか。	方向性の冒頭で、「コンパクトで効率的な都市構造の構築に向けた取組を進める」とし、その後段で、快適な住環境や賑わいの創出、産業基盤、拠点機能の強化、環境保全、防災力の強化と具体的な考えを示していることは、意見と同様な考えである。 また、集約化などにおける都市構造の具体的な方策については、基本計画においても別途示すこととなる。 基本計画で検討する。	基本計画